

茂 福 城 跡 2

2000 (平 成 12) 年 8 月

四 日 市 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、三重県四日市市茂福町地内に所在する茂福城跡（市遺跡番号 253）の発掘調査報告書である。
2. 本調査は四日市市下水建設課が計画する羽津茂福3号基幹水路築造工事に伴うもので、費用は四日市市が負担した。
3. 本調査は平成11年11月1日から11月11日までおこなった。
4. 本調査は四日市市教育委員会が実施し、調査を加藤淳次、佐々木裕が担当した。
5. 本調査にあたっては、四日市市下水建設課、奥村・穂宝特定建設工事共同企業体からご協力を頂いた。
6. 本書は佐々木の協力を得て加藤が執筆した。
7. 本書の方位は、真北を用いた。なお、磁北方位は、西偏6度40分（平成7年、国土地理院）である。
8. 出土遺物及び調査記録は、四日市市教育委員会において管理・保管している。

I 位置と環境

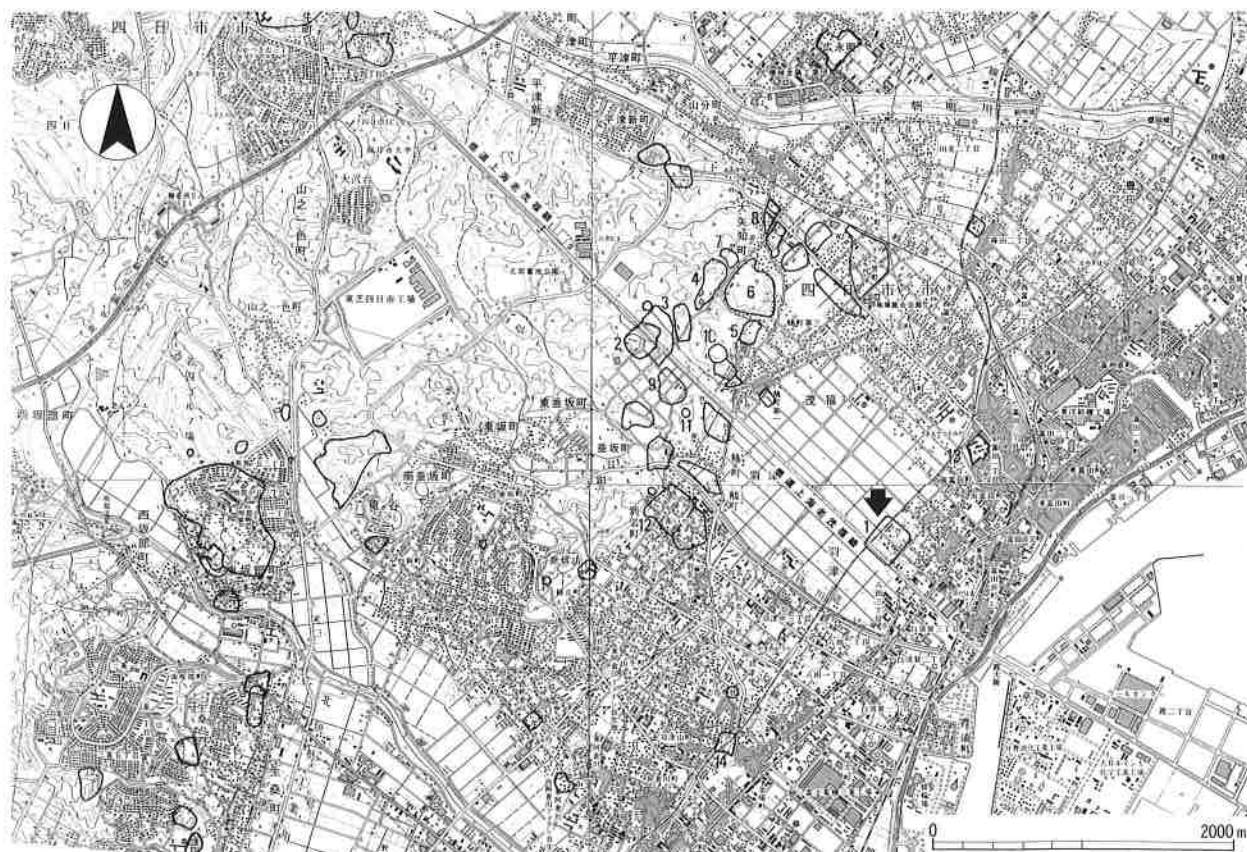
茂福城跡(1)は、朝明川と海蔵川にはさまれた標高約2mほどの低地に位置している中世城館で、主郭の一部が四日市市の指定史跡を受け、土壇として残っている。

城跡の周辺、特に西側の丘陵地には数多くの遺跡が密集している。100棟をこえる竪穴住居跡が検出されている山奥遺跡(2)をはじめ、羽津広遺跡(3)、富士谷遺跡(4)、大矢知山畑遺跡(5)、久留倍遺跡(6)、青木谷遺跡(7)、八反縄遺跡(8)などの弥生時代の遺跡が所在しているが、これらのほとんどが未調査のままである。

古墳時代に入ると環頭大刀柄頭が発見された死人谷横穴墓群(9)や斎宮山古墳群(10)、糠塚古墳(11)などがみられる。

古代寺院には大膳寺跡(12)がある。瓦の文様の様式から、平安時代の建立と考えられている。

中世になると南部氏の富田城(13)、田原氏の羽津城(14)などの城館が築城され、これらの豪族は、茂福氏らとともに北勢四十八家を形成していた。



第1図 茂福城跡周辺遺跡位置図(1:50,000)(国土地理院「四日市西部」「四日市東部」「桑名」「菟野」1:25,000)

II 調査の経過

茂福城跡は、過去、道路改良事業や下水道整備関連の開発が行われており、事前に調査を行ってきた。今回は四日市市下水建設課が行う羽津茂福3号基幹水路築造工事に伴うもので下水建設課と協議を行った。

平成11年4月8・9日に行った試掘調査では、堀の埋土が確認されており、工事によって堀の北西隅が破壊される可能性が考えられた。このため、協議の結果、堀の推定箇所を含めた全長140m、幅5mの調査区（面積700㎡）を設定し、記録保存を目的とした発掘調査を11月1日より実施することとなった。

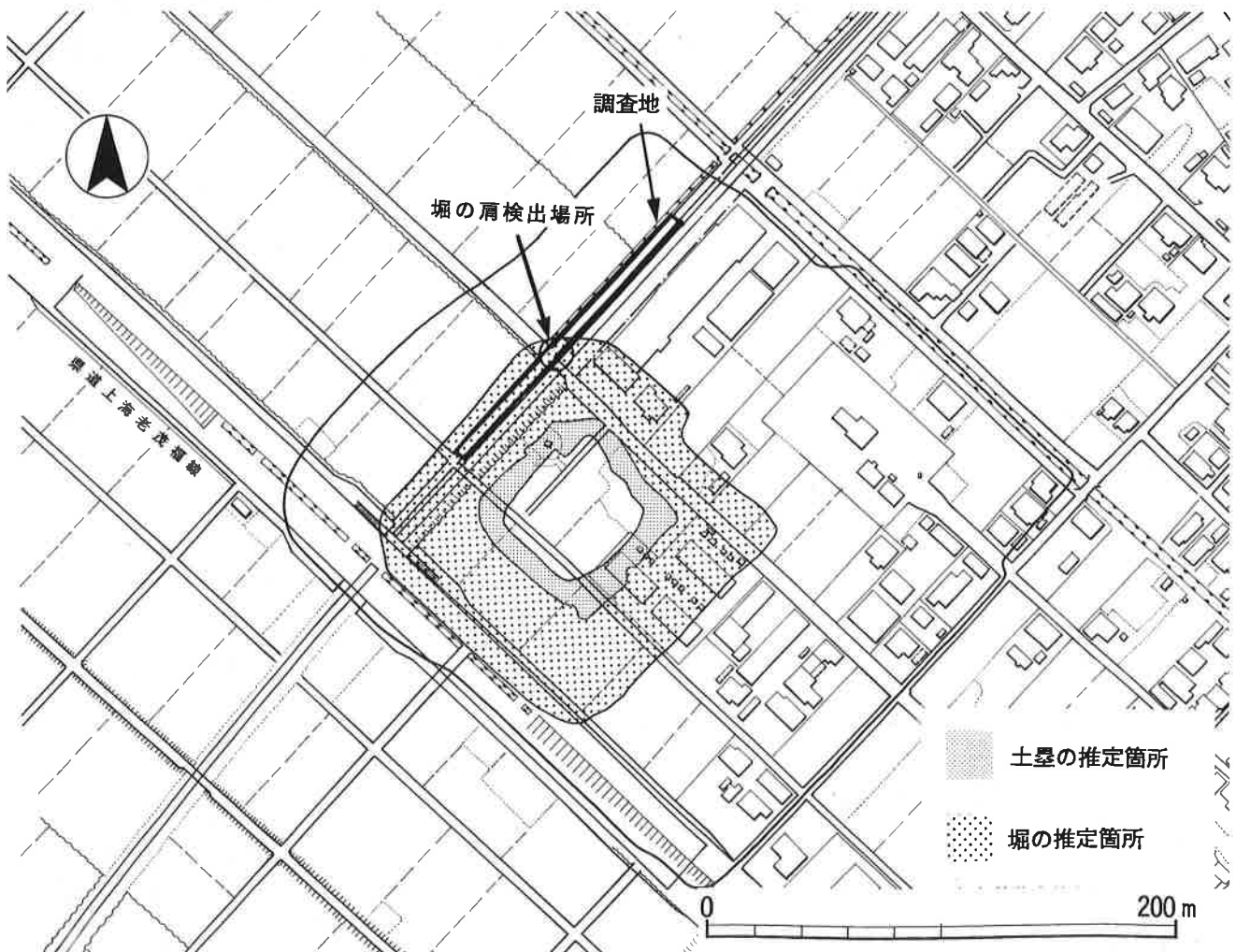
調査経費については、下水建設課より現物支給を受けることとなり、四日市市長を甲とし、市教育委員会を乙として平成11年10月29日付けで協定書・協議書を締結した。

III 調査の概要

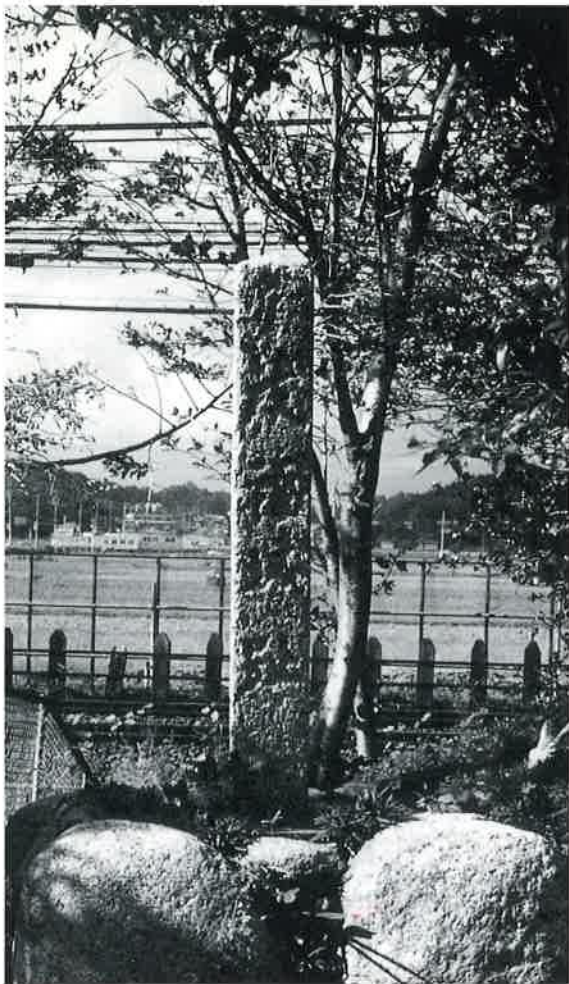
調査の結果、現存する主郭の北側で堀の一部を検出した。この付近は海岸低地になっており、河川の氾濫等による堆積土が多く、堀は表土から約1.4m下で検出された。検出した部分は堀の外側の肩で地山を掘り込んでつくられていた。深さは約0.6mで、自然崩壊と後世の削平をうけた痕跡がみられたため、旧状をとどめていないと考えられる。また堀の肩が北西から南東にのびていることから、主郭の北側に巡らされた堀の一部と推定される。

遺物は、堀の埋土の暗緑褐色粘質土層から土師器羽釜・陶器などの土器片数点と漆塗りの木製品1点が出土した。

調査は城の外側についても行ったが、標高約0mの同じレベルで地山が続いており、城に付帯する施設・遺構等は確認できなかった。



第2図 茂福城跡地形図(1:3,000)



市指定史跡 茂福城跡



調査地全景(南から)



作業風景

IV 出土遺物の概要

遺物は、コンテナ0.5箱分出土しており、いずれも堀の埋土からのものである。以下略述する。

土師器羽釜(1・2)

1は口縁部の下にほぼ水平に鈿が巡り、口縁部と鈿部との間に2個1対の穿孔がみられる。口径は19.3cmで、口縁部は内外面ともヨコナデで仕上げている。鈿部より下方に煤が付着している。15世紀頃のものと思われる。

2は体部から口縁部にかけて内湾する口径14cmの小ぶりのものである。欠損しているため口縁部と鈿部との間に穿孔が1個しかないが、2個1対になるものと思われる。体部は煤の付着により調整は不明である。口縁部外面はヨコナデにより、内面は指押さえと板ナデによる調整がみられる。15世紀頃のものと思われる。

土師器皿(3・4)

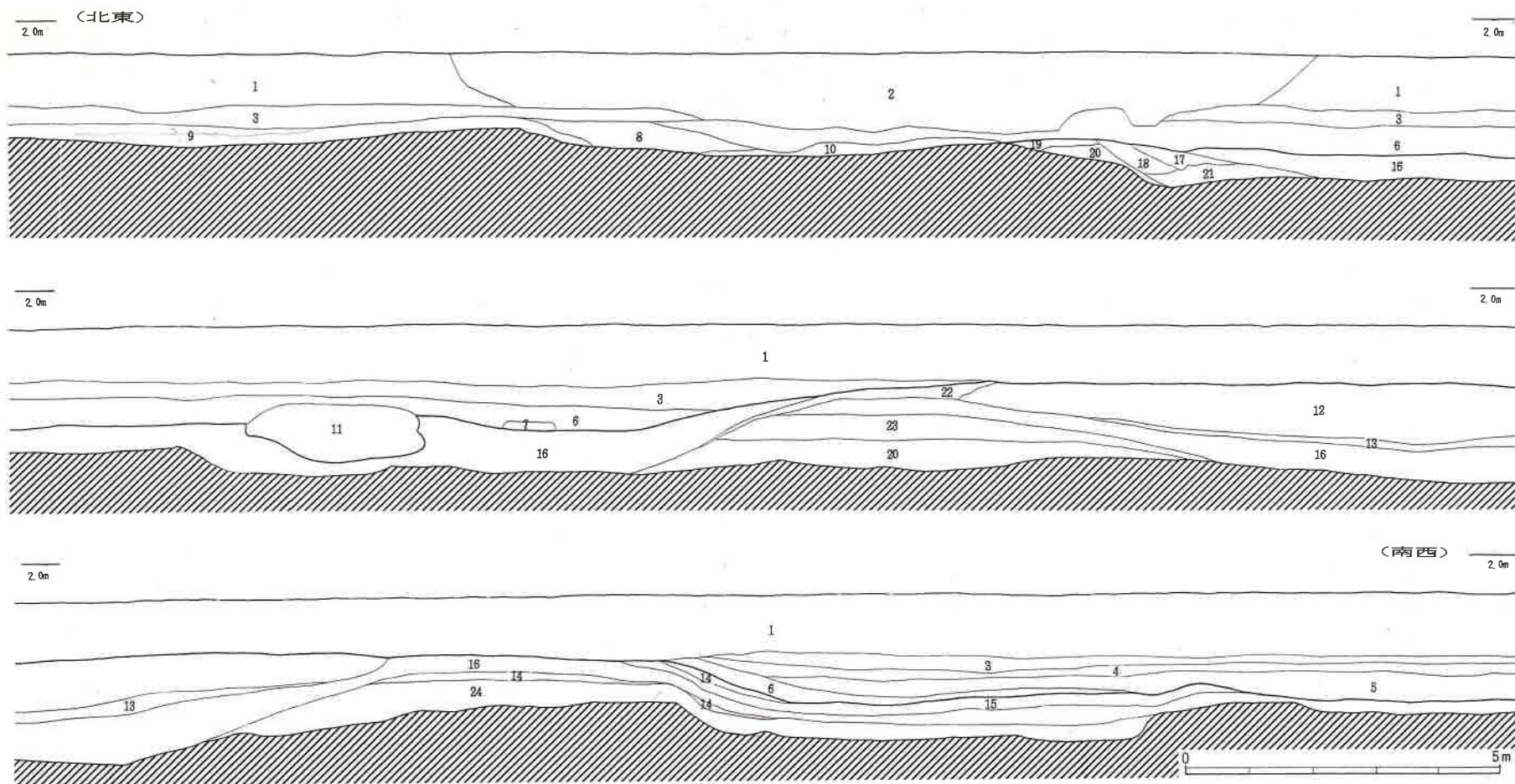
2点とも口縁部分のみの小破片で内外面ともヨコナデを施している。

陶器(5~8)

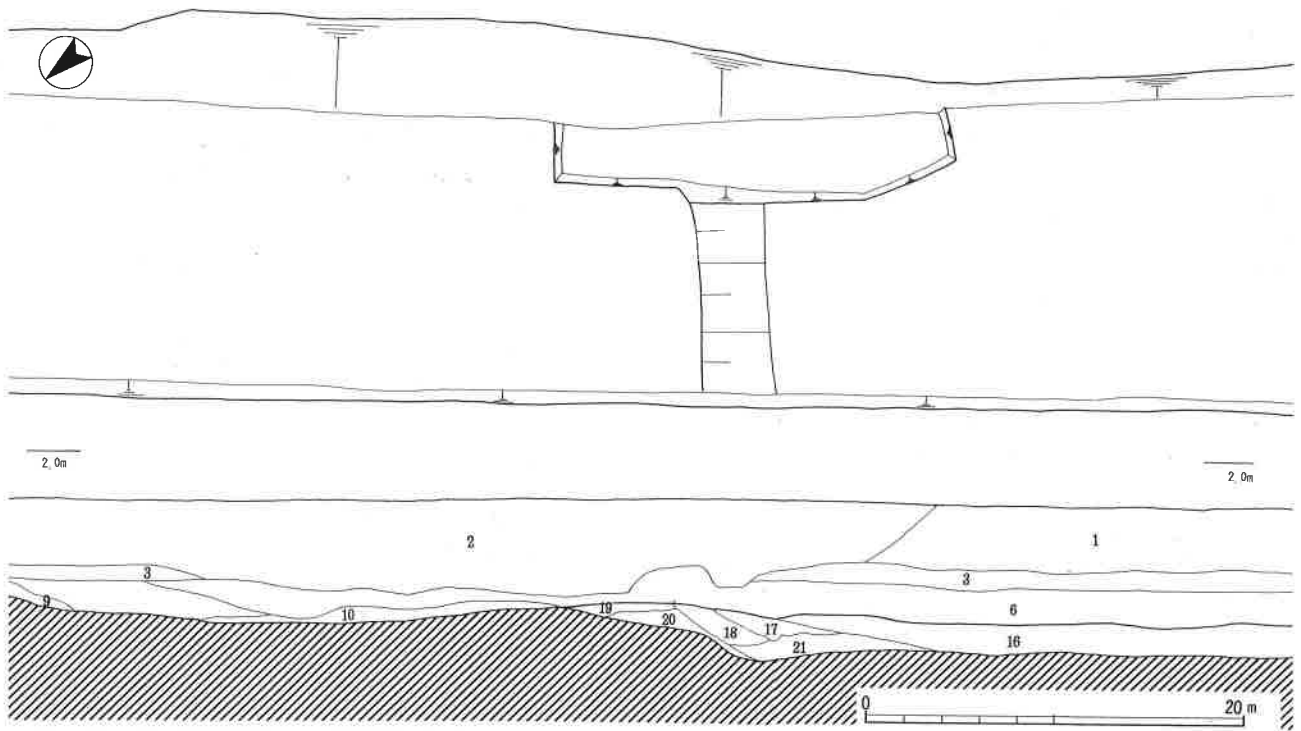
皿1点(5)、甕2点(6・7)、壺1点(8)の4点出土したがいずれも小破片である。甕は2点ともナデ調整を施している。6は口縁部が折り返されて作られている。8は体部の破片で、オリーブ灰色の釉がかかっている。

木製品(9)

漆塗りの把手状木製品で6本の沈線がめぐっている。中央部に径1cmの穿孔がみられる。欠損しているため全体の形は定かでない。共伴していた土器から考えて15世紀頃のものと思われる。



- | | | | |
|--------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|
| 1. 耕作土 | 7. 灰白色粗砂 | 13. 灰白色粗砂 | 19. やや濃い暗緑褐色粘質土 |
| 2. かく乱 | 8. 灰白色粗砂 (褐色砂質土混じり) | 14. 暗緑褐色粘質土 (灰白色粗砂混じり) | 20. 灰白色粗砂 (暗褐色粘質土混じり) |
| 3. 暗褐色土 (粗砂混じり) | 9. 淡褐色砂質土 | 15. 暗緑褐色粘質土 | 21. やや濃い暗褐色粘質土 |
| 4. 暗灰褐色シルト (粗砂混じり) | 10. 暗緑褐色粘質土 (粗砂混じり) | 16. 暗褐色粘質土 | 22. 灰白色粗砂 (暗褐色粗砂混じり) |
| 5. 暗褐色シルト | 11. 青灰色シルト | 17. 灰白色粗砂 (褐色粘質土混じり) | 23. 暗灰褐色粘質土 (粗砂混じり) |
| 6. 暗褐色粘質土 (粗砂混じり) | 12. 黄褐色粗砂 | 18. 灰白色砂質土 (暗褐色粘質土混じり) | 24. 暗褐色粘質土 (粗砂混じり) |



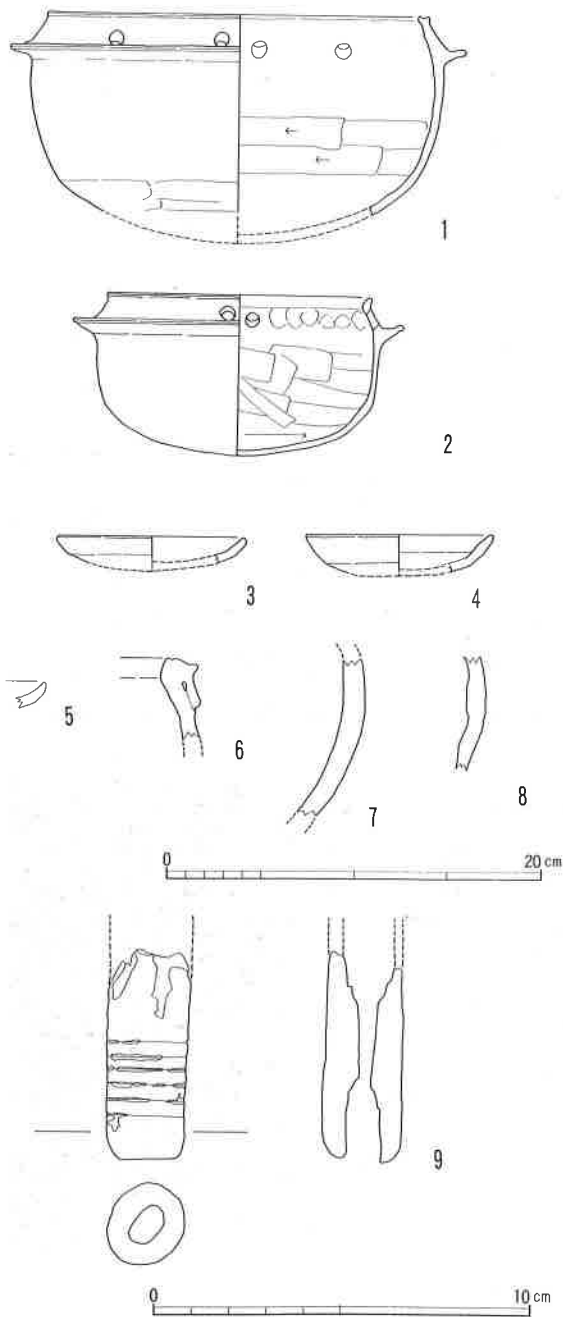
第4図 堀の肩平面図・土層図(1:100)



堀の肩 (南東から)



堀の肩土層 (北西から)



遺物写真(1 : 3, 9は1 : 1)

第5図 遺物実測図(1 : 4, 9は1 : 2)

No.	登録No.	器種	測定値			調整	胎土	焼成	色調	残存率	備考
			口径	底径	器高						
1	1-1	土師器 羽釜	(19.3)	—	(12.4)	内外面-ヨコナデ	密 (2mm以下の砂粒含)	良	灰黄色(2.5Y6/2)	口縁部30%	体部外面煤付着
2	3-1	土師器 羽釜	14.0	—	8.6	外面-口縁部ヨコナデ 内面-ユビオサエ・ナデ・板ナデ	密	良	にぶい黄褐色(10YR5/1)	口縁部30%	体部外面煤付着 内面底部炭化物付着
3	2-3	土師器 皿	(10.0)	—	(1.9)	内外面-ヨコナデ	密	良	にぶい黄褐色(10YR7/3)	10%	
4	2-2	土師器 皿	(10.0)	—	(2.2)	内外面-ヨコナデ	密	良	にぶい黄褐色(10YR7/3)	20%	
5	4-3	陶器 皿	—	—	—	内外面-ヨコナデ	密	良	灰白色(7.5Y7/1)	10%	
6	4-2	陶器 甕	—	—	—	内外面-ヨコナデ	密	良	灰褐色(5YR4/2)	—	
7	2-1	陶器 甕	—	—	—	外面-ナデ 内面-ケズリ・ナデ	密	良	明赤褐色(SYR5/6)	—	
8	4-1	陶器 壺	—	—	—	外面-ヨコナデ	密	良	灰白色(10Y7/1)	—	外面オリブ灰色の釉
9	5-1	木製品	径2.0			—	—	—	—	—	中央部に穿孔 外面に沈線

第1表 遺物観察表

V ま と め

茂福城跡は、1977年（昭和52年）の発掘調査^①をはじめとして数度にわたる試掘調査が行われてきている。その結果、堀と考えられる遺構や遺物として土師器羽釜・山茶椀等の土器、下駄・漆器椀等の木製品が見つかっている。しかし、堀や土塁の規模・構造の詳細は明らかでなかった。

今回調査するにあたり、「三重郡茂福村字里ノ内地籍図」を現在の地図に照合させたところ、調査地内に堀の北西隅付近が含まれることが想定された。調査の結果、想定された場所で堀の肩が検出された。これは、今回の調査における最大の成果である。検出場所は、現存する主郭の北側を走る道路上にある近鉄名古屋線の踏切の西側部分で、肩は北西から南東方向に延びていた。このことから、主郭の北側に巡らされた堀の外側の肩であると推定される。この

発見により地籍図の信憑性が高まったと思われる。

今回は、下水道建設に伴う発掘調査であり、限定されたものであったが、茂福城跡の構造を窺う貴重な遺構が発見された。今後の調査により、茂福城跡の姿が明らかにされることを期待したい。

なお、茂福城跡の文献上からの考察については、前回の調査報告書を参照されたい。

① 谷川博史ほか 『茂福城跡』（四日市市茂福城跡調査会 1978）

報 告 書 抄 録

ふりがな	もちぶくじょうあと							
書名	茂福城跡 2							
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	26							
編集者名	加藤 淳次							
編集機関	四日市市教育委員会							
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL 0593-54-8240							
発行年月日	2000（平成12）年6月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
もちぶくじょうあと 茂福城跡	よっかいちしもちぶくじょう 四日市市茂福町	24202	253	34° 59' 44"	136° 38' 45"	19991101 ～ 19991111	700㎡	下水道 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
茂福城跡	城館跡	室町時代	堀	土師器羽釜・木製品				

編集・発行／四日市市教育委員会 印刷／フコク印刷工業有限公司

